讀賣新聞

2007年(平成19年)7月29日　日曜日

中越沖地震　空白域に集中

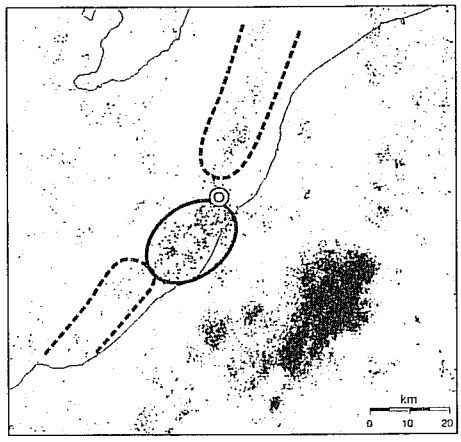
産業技術総研　過去10年の活動解析

新潟県中越沖地震の震源域は、過去10年間に地震が起きていない空白域に集中していることが、産業技術総合研究所活断層研究センター（茨城県つくば市）の遠田晋次主任研究員の解析でわかった。

遠田主任研究員は、1997年10月から16日の中越沖地震発生までの期間に気象庁が観測したすべての地震の震源と、今回の地震の本震と15時間以内の余震の震源の位置を比較した。その結果、今回の地震は、過去10年間に地震活動が不活発だった地域を埋めるように発生していたことがわかった。

今回の発生域の北東側にある帯状の地震活動域の南端で本震が起き、南西方向に余震が広がっている。

遠田主任研究員は「地震活動が途切れている空白域で地震が起きやすいことが確かめられた。ほかの地域でもこうした特徴から地震の危険を判断できる可能性がある」と話している。



中越沖地震の本震が◎、余震が実線で囲んだ部分。沿岸の北東から南西方向に帯状に過去の震源（破線部分）が分布し、空白域で今回の地震が起きている（産業技術総合研究所の図を基に作成）